ESBL 産生菌の実態調査

保健科学課　麻生嶋　七美・本田　己喜子・松田　正法
徳島　智子・吉澤　千尋・宮基　良子・樋脇　弘

第 3 回微生物検査を考える研究会

ESBL 産生菌は，薬剤耐性遺伝子を同菌種間だけではなく異なる菌種間にも伝播させるため，医療機関において問題となっている．今回，健康者 249 検体，臨床分離株 9 株，院内環境 44 検体，2000～2009 年の間に当研究所で保存された EHEC（O157，O26）220 株と赤痢菌株 70 株，福岡市と畜場に搬入された牛・豚の直腸便それぞれ 50 検体および市販鶏肉 60 検体を対象に，ESBL 産生菌の実態調査を行った．検査の結果 53 検体 54 株の ESBL 産生菌が検出された．健康者や，牛・豚の糞便からの検出率は 10%以下であったが，鶏肉では 25%と高かった．臨床分離株では，*C. koseri* が多く見られたが，健康者や，牛・豚の糞便，鶏肉から検出された菌の多くは大腸菌であった．当研究所で分離された EHEC 株からは ESBL 産生菌は検出されなかったが，赤痢菌株の 2 株が ESBL 産生菌であった．また，これらの ESBL 産生菌についてグループ型別を行ったところ，健康者からは TEM 型，CTX-M-9 group，TEM 型＋CTX-M-9 group が多く検出された. 臨床分離株からは菌種ごとに異なったグループ型が検出された. 赤痢菌株は TEM 型＋CTX-M-1 group であった．牛・豚では CTX-M-1group，CTX-M-9 group などが検出され，鶏肉では SHV 型および CTX-M-1 group が多かった.